

～保護者の方へ～



ロタウイルス予防接種について

ロタウイルス予防接種は、法律に基づいて受ける定期接種です。この説明書をよく読んで、医師から説明を受けたうえで予防接種を受けてください。

【接種対象者】注：使用するワクチンにより異なります

- ① ロタリックス（経口弱毒性ヒトロタウイルスワクチン） 生後6～24週に至るまで
② ロタテック（5価経口弱毒性ヒトロタウイルスワクチン）生後6週～32週に至るまで

※接種時点で釜石市民であること

【接種方法など】

ワクチン	接種開始時期	接種間隔・回数・接種方法
ロタリックス	生後2月から生後14週6日まで ※標準的な接種年齢	4週間以上の間隔をおいて2回経口接種 2回目の接種は1回目から27日（4週間）以上あける
ロタテック	生後2月から生後14週6日まで ※標準的な接種年齢	4週間以上の間隔をおいて3回経口接種 2回目の接種は1回目から27日（4週間）以上あける

1 ロタウイルス胃腸炎について

- ・ロタウイルス胃腸炎は、乳幼児期に多くおこるウイルス性の胃腸炎です。ロタウイルスは全世界に広く分布し、衛生状態に関係なく世界各地で感染がみられます。
- ・ロタウイルス胃腸炎の多くは、突然の嘔吐に続き、白っぽい水のような下痢を起こします。発熱を伴うこともあります。回復には1週間ほどかかります。また、ほとんどの場合は特に治療を行わなくても回復しますが、時に脱水、腎不全、脳炎、脳症などを合併することもあり、症状が重い場合は入院が必要になることもあります。
- ・日本でのロタウイルス胃腸炎の発症は冬から春に多く、主に生後3から24カ月の乳幼児に起こりますが、ピークは生後7から15カ月です。生後3カ月までは、お母さんからもらった免疫で感染しても症状が出ないか、症状があっても軽く済みます。生後3カ月以降に初めて感染すると重症化しやすくなります。実際にロタウイルス胃腸炎は小児急性重症胃腸炎の原因第一位で、受診した人の10人に1人が入院するという報告があります。
- ・ロタウイルス胃腸炎の重症化はワクチン接種で防ぐことができます。

2 ロタウイルス胃腸炎を予防するワクチンについて

- ・ロタウイルス胃腸炎のワクチンは、経口生ワクチンです。注射剤ではありません。
- ・ロタウイルス胃腸炎のワクチンは、人に感染するタイプと同じタイプのウイルスの病原性をほとんどなくし、培養細胞で増殖させて精製した後に、シロップ状にしています。
- ・ロタウイルス胃腸炎の原因となる主なウイルスは5つのタイプがあります。（G1、G2、G3、G4、G5）
ロタリックスは中でも一般的なG1タイプを元に作られたワクチンです。
ロタテックは5つのタイプを元に作られたワクチンです。
- ・ロタリックス、ロタテックを内服した後は、自然にロタウイルスに感染した時と同じように免疫が得られます。

3 次の場合がロタウイルス予防接種をうけられません

- ① 明らかに発熱している方（通常は37.5℃を超える場合）
- ② 重い急性疾患にかかっている方（下痢やおう吐の症状がある時は延期してください）
- ③ このワクチンの接種後にアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）をおこしたことがある方
- ④ 腸重積症の発症を高める可能性のある未治療の先天性消化管疾患（メッケル憩室など）がある方
- ⑤ 腸重積症になったことがある方
- ⑥ その他、予防接種を受けることが不適当な状態にある方
- ⑦ 重症複合型免疫不全（SCID）がある方

腸重積症とは

腸重積症は、文字どおり腸が腸の中に入りこんで重なり合ってしまう病気です。腸が重なり合うと、中に入りこんだ腸は外側の腸の一部に締めつけられてしまいます。そのため、腸閉塞（ちょうへいそく：腸の内側が狭くなり、腸の中にある物が流れなくなってしまう状態）の症状が起こって、飲んだり食べたりしたものが通らなくなったり、血液がスムーズに流れなくなったりします。腸重積症が起こりやすいところは、小腸の末端で大腸に一番近い回腸と呼ばれる部分で、この回腸が大腸に入りこむケースが最も多く見られます。そのほか、小腸が小腸に入りこむケースもありますし、重なった小腸がさらに大腸にめりこんで三重になるなど、ひとくちに腸重積症といつてもさまざまなケースがあります。ただし、どのようなパターンの腸重積症でも、症状に変わりはありません。ワクチン接種の有無にかかわらず、0歳のお子さんがかかることが多い病気です。

4 口タウイルス予防接種の副反応

- ・最も多くみられるのは、ぐずり（7.3%）、下痢（3.5%）、咳・鼻水（3.3%）でした。その他、発熱、食欲不振、嘔吐などがみられました。
- ・海外臨床時試験では、ぐずり、下痢（1～10%未満）、鼓腸（おなかがふくれること）、腹痛、皮膚炎（0.1～1%未満）でした。海外で、接種後に報告されたおもな副反応は腸重積症、血便、重症複合型免疫不全（S C I D）のある患者さんのワクチンウイルス排泄を伴う胃腸炎でした。

5 予防接種をうける前に

(1) 一般的注意

気にかかることや分からぬことがありますれば、予防接種をうける前に担当の医師に質問しましょう。予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。保護者が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

(2) 予防接種を受けることができない方

- ① 明らかに発熱している方（通常は37.5℃を超える場合）
- ② 重い急性疾患にかかっている方
- ③ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方

(3) 予防接種を受ける際、医師とよく相談しなければならない方

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- ② 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発しんなどのアレルギーを疑う症状のみられた方
- ③ 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- ④ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方

(4) 接種を受けた後の注意事項

- ① 接種を受けた後に、急な副反応が起こることがありますので接種後30分間はその場で様子をみるようにし、30分たってから医療機関を出るようにしましょう。
- ③ 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ④ **腸重積症と思われる症状（泣いたり、不機嫌になったりを繰り返す、おう吐を繰り返す、ぐったりして顔色が悪くなる、血便が出る）**が見られた場合は速やかに医師の診察を受けて下さい。なお、ロタウイルスワクチン接種後1週間は腸重積症を発症するリスクが少し増加する可能性がありますので、接種回数にかかわらず腸重積症の症状にご注意ください。
- ⑤ ワクチン接種後1週間程度は、便中にウイルスが排泄されます。念のためにオムツ交換後などワクチン接種のお子さんと接した時は手洗いを徹底しましょう。
- ⑥ 異なる種類のロタウイルスワクチンと交互に接種はできません。同一のワクチンの接種を受けましょう。

6 副反応が起こった場合

予防接種後、まれに副反応が起こることがあります。予防接種と同時に、ほかの病気がたまたま重なって現れることもあります。予防接種を受けた後、下痢、ぐずり、発熱など体調変化が現れた場合は、速やかに接種した医師（医療機関）の診断を受けてください。